

キャラクター名
柳下 朧 やなぎした おぼろ

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス		ワークス	UGNエージェントD	カヴァー	執事
	パロール					
オプション			年齢	不詳	性別	男
覚醒	渴望	衝動	闘争		初期侵食率	84 %
出自	双子	経験	永劫の別れ		邂逅	主人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	25
肉体	1	0	0			1	行動値	9
感覚	3	0	0			3	(非装備時)	9
精神	2	0	0	1		3	戦闘移動	14
社会	2	1	0			3	全力移動	28

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	10		交渉	1	
回避			知覚	1		意志			調達	3	
運転:			芸術:			知識:	1		情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
情報収集チーム	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
神楽宮家	P 誠意	N 悔悟		
S 神楽宮愛華理	P 尽力	N 不快感		
D 錬金術師	P	N		
高槻瑞樹	P 誠意	N 不安		
★タイプ: フル	P 同情	N 憐憫		
マサキ	P 同情	N 憐憫		
ヴィークル	P	N		

最大財産P: 12 残り財産P: 6

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
砂の結界	1	2	オート		単体			
効果: カバーリングを行う。行動済みでも可能で行動済みにならない。1メインプロセスに1回								
グラビティガード	3	3	オート		自身			
効果: ガード時に使用 G値を+1vD								
アーマークリエイト	5	2+2	マイナー		自身			
効果: 5+1v+6の装甲を装備								
シールドクリエイト	5	3+2	マイナー		自身			
効果: 攻撃力0 ガード値lv *2+4+3の武器を作成しシーン中装								
時の棺	★	10	オート		単体		100	
効果: 判定の直前に使用 それを失敗させる。								
孤独の魔眼	2	4	オート	視界				
効果: 範囲選択攻撃の対象を自身に。シナリオlv回								
斥力障壁	5	2	オート	視界	単体			
効果: 被ダメを-1d10+1v*2する ラウンド1								
サイコメトリー	1	2	メジャー			情報		
効果: 情報判定に使用 +1v+2dする								
セットバック	2	2	オート	至近	自身			
効果: パステを受けた直後に使用 暴走以外のパステを1v個回復 ラウンド1 重圧下でも使用可能								
コンセントレイト	3	2	メジャー					
効果: c-1v 下限7								
ペトリファイ	3	2	メジャー	視界	単体	RC		
効果: 対象の行動値をシーン中-1v*2 マイナー消費で解除可能								
死神の瞳	5	3	メジャー		単体	RC		
効果: 対象が次に受けるダメージを+1v+1dする 適用するまでシーン中継続								
赤方偏移世界	5	2	セット	視界	単体			
効果: 行動値1v*2								

キャラ画像 むら孫より黒田坊
坊主の袈裟をきて編み笠をかぶり錫杖を振るう執事。これに関しては彼の趣味であり特に意味はない。
今は亡き先代当主に代わり令嬢を守護することを誓っており、実年齢を頭なかに話さず、また先代の弟であることを隠している。
また名家の双子は不吉をもたらすと言われ自ら名を変えた。柳下という苗字、朧という名は偽名であるが本名を持たないためこれで通している。
一人称はワタクシ。常に敬語であるものの慇懃無礼。錫杖は自身の能力で作成し、その周囲に重力場を作ること盾として使用している。
また錫杖を作る過程で出来た砂を利用しそれを射出することで射撃武器として扱うことも多くある。
オーヴァード化した理由は兄の死後自ら渴望したため。すべては神楽宮がために。
御嬢様が覚醒しUGN側についてことで朧もまた彼女の側近としてUGN側と協力する姿勢を見せた。

ワーディングを展開すると周辺の雑音が消え去り静寂に辺りが包まれる。
「雑踏に紛れるなど、お嬢様にはふさわしくありません故、勝手ながら消させていただきました」
「お嬢様、さては頭蓋の中身をどこへ紛失されましたか」
「どうやらお嬢様は錯乱されておられるご様子」
「大変申し上げにくいのですが、大外れにございます」
「ワタクシのような恰好をしてはおりますが僧ではございませぬ故、お間違いないきよう」
「この戦い、ワタクシがお受けいたします。皆さまは先をお進みくださいませ」
「冗談でございます」

あれはまだ御嬢様が幼き頃、当主であった兄が急死した。
双子は不吉である、忌まわしい風習から神楽宮の名を捨てた私には当然兄の跡を継ぐ権利などなく幼き御嬢様にその全権が委ねられた。
その小さくか弱い両肩に莫大な財産とそれに連なる大勢の人生が載せられたのだ。
私は求めた、あの小さき者を守る力を、亡き父の全てを受け継いだあの子をあらゆる火種から庇うだけの盾を、彼女に害する全てを始末する武器を。

